

写真は語る... さやま遊園

番外編

夕日が沈むころ、遊園地 あったが、約二万四千人が
は「何年もなかった熱気 思い出の場所に名残を惜し
に包まれた。」
昨年四月一日、大阪狭山 家路につかなかったとい
市の「さやま遊園」が戦前 う。
からの歴史に幕を閉じた。 「多くの人の惜しむ声を
最終日は、家族連れや若者 耳にして、あらためて地域
たちだけでなく、中高年の のみなさんに愛されてきた
人たちの姿も目立って、い ことを実感しました」
た。入園無料ということも 最後を見届けた志水二元

園長「当時」は、こう話し
た。

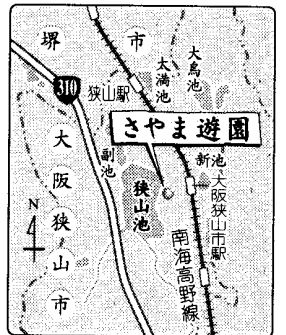
さやま遊園の歴史は、時
代にほんろうされ続けた歴
史ともいえる。
昭和十三年、南海鉄道
(現・南海電鉄)は、狭山
池のほとりにさやま遊園を
開園した。花園や芝生広場
を中心に、植物館や昆虫館
などの施設もあり、都市近
郊のレジャー施設として連
日客足が途絶えることのな
い人気スポットだった。
近頃の東野義雄さん(八
は「当初から大変なにごわ
いだった。相撲の興行なん
かがあったのを覚えてい
る」と振り返る。
しかし戦争の荒波はさや
ま遊園も襲う。第二次世界
大戦の激化に伴い閉鎖さ
れ、食糧難を補うため花の

さやま遊園

子供に夢を与え続けて 時代にほんろうされ幕

咲き誇った園内
がイモ畑に姿を
変えた時期もあ
った。

戦後の昭和二
十七年には狭山
池を舞台にモー
ターボートレー
スがはじまっ
た。遊園地の場所には観戦
スタンドが建設。だが、干
ばつによる水不足でレース
ができない日が続いたこと
などから、わずか四年で競
艇は終わった。
そして昭和三十四年、遊
園地として復活。レジャー
ブームの波に乗って入場者
数を伸ばし、大観覧車やス
ケートリンクが登場した昭
和四十八年に五十四万人を
突破。南海沿線(高野線)
の身近なレジャー施設とし
てそのピークを迎えた。
この時期に同市で少年時
代を過ごした山崎正弘さん
(三三)「河内長野市は遊園
地に熱中した一人だ。
「地元で遊園地があるの
をうらやましがられたのが
す。しかし、入場者数は徐々
と減っていった。平成十年
度には約二十万人にまで落
ち込み、単年度の赤字が二
億円にのぼった。近くに競
合する施設が増えたことも
あって、南海電鉄は採算の
取れない事業として撤退の
決断をよぎらせた。」
長年、同園のゲート前で
雑貨店を開いていた宮下和
子さん(八七)は閉園を機に
店を閉めた。
「夫(義一さん)はかつて
南海電鉄に務め、定年後は
さやま遊園前のこの店で
働くのが生きがいでした
が、昨年七月に亡くなりま
した」と肩を落とす。まる
で、遊園地にぎわいのあ
とを追うような七十三歳の
死だった。
現在、トレードマークだ
った大観覧車もジェットコ
ースターなどの遊具は撤去
され、わずかに残ったチケ
ット売り場とゲートだけが
遊園地だったことをしのば
せている。跡地には、宴の
あとの静けさのみが残る。
多くの人が愛着を思い出
した遊園地はそれぞれの
胸の中で生きることにな
った。



2万4000人が集まった昨年4月の営業
最終日。みんなが思い出に別れを告げ
た



わずかに残ったチケット売り場とゲート。静け
さのみが残る

(松岡 達郎)